

もしもいちど、 鴨を撃ちちに

作：A・ヴァムピローフ「鴨猟」(宮澤俊一・五月女道子訳 群像社)
台本・演出：島守辰明(兵庫県立ピッコロ劇団)

堀江勇氣
浜崎大介
今仲ひろし
風太郎
吉江麻樹
車 貴玲
有川理沙
木之下由香
三坂賢二郎
金田萌果



2021年

4月9日(金) / 11日(日)

会場
ピッコロシアター 中ホール

(お問い合わせ) 兵庫県立
ピッコロ劇団

TEL 06-6426-8088 FAX 06-6426-1943

〒661-0012 兵庫県尼崎市南塚口町 3-17-8

月曜休館 (祝日の場合は翌日) <https://piccolo-theater.jp>

(チケット) 予約 2,000円 当日 2,500円
(※整理番号付き自由席)

| | 4/9(金) | 4/10(土) | 4/11(日) |
|-------|--------|---------|---------|
| 13:00 | 鴨 | 鴨 | 鴨 |
| 18:30 | 鴨 | 鴨 | |

チェーホフの再来!

ある、ちっぽけな男の喜劇。
 仕事も結婚生活も順調にっていた、ズイーロフ。
 新しい家を持つことにもなり、何の不足もなかった彼は、
 ある時になってそのすべてに意味を見失ってしまう。
 唯一、鴨猟へ行くことを願っていたある雨の朝、彼の部屋に現れた少年。
 少年の持ってきた葬式の花輪には
 「ヴィクトル・アレクサンドロヴィチ・ズイーロフ」と彼の名前が書かれていた・・・。
 チェーホフの再来と嘱望されながら 34 歳で天逝した
 旧ソビエトの鬼才アレクサンドル・ヴァムピーロフの名作。

作 II A・ヴァムピーロフ「鴨猟」(宮澤俊一・五月女道子訳 群像社)
 台本・演出 II 島守辰明 (兵庫県立ピッコロ劇団)

もういちど、 鴨を撃ちちに



美術 | 加藤登美子 照明 | 竹内哲郎 (練ハートス) 音響 | 増田郁子 (練スタッフステーション)
 舞台監督 | 政香里沙 演出助手 | 本田千恵子 チラシデザイン | 中島深志 制作 | 河東真未・生田祥太

2021年
4月9日(金) - 11日(日)
ピッコロシアター
 中ホール

※受付は開演の30分前、開場は開演の20分前。
 ※開場時、チケットの整理番号順にご入場いただきます。

| | 9(金) | 10(土) | 11(日) |
|-------|------|-------|-------|
| 13:00 | 🦆 | 🦆 | 🦆 |
| 18:30 | 🦆 | 🦆 | |

2月27日(土)チケット予約開始

【チケット料金】
 予約 **2,000円**
 当日 **2,500円**
 ※整理番号付き自由席
 ※未就学児のご入場はご遠慮ください。
 ※ピッコロサポートクラブ会員は割引扱い
 ※チケットのご精算・お渡しは全て当日

【予約方法】いずれかの方法でお申込みください
 ■ピッコロシアター窓口
 ■電話 **06-6426-8088**
 (9:00~21:00 ※月曜休館、祝日の場合は翌日)
 ■メール **gekidan-p@hyogo-arts.or.jp**
 (タイトルを「もういちど、鴨を撃ちに」としてください)
 記入事項 ①ご予約者氏名 ②電話番号・住所
 ③ご観劇日時 ④チケットの枚数
 ⑤観劇する方全員の氏名
 ※1週間以内に返信がない場合はお問い合わせください。

お客様へのお願い

本公演は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染予防、拡散防止に細心の注意を払い上演いたします。詳細は、最新情報をピッコロシアターホームページに掲載いたします。お客様におかれましても感染予防対策にご協力いただきますようお願い申し上げます。

★今後の状況の変化や、政府ならびに兵庫県などの行政の指示により急遽公演を中止することがございますのでご了承ください。中止の場合は、ピッコロシアターホームページ等でお知らせいたします。

- ・公演当日を含む2週間以内に、発熱や風邪の症状があった方のご来場はご遠慮ください。
- ・公演当日は入場時の検温にご協力ください。37.5℃以上の方は入場をお断りしますのでご了承ください。
- ・劇場内では、マスクの着用をお願いします。着用のないお客様はご入場をご遠慮いただく場合もございます。
- ・館内に掲示のQRコードを読み込み、「兵庫県新型コロナ追跡システム」へのご登録をお願いします。感染者の利用が判明した場合、登録者に注意喚起情報を通知します。

コロナをこえて 父の幻影

2020年4月に上演予定だった今作は上演直前に中止が決まった。稽古場での最後の通し稽古も済んだ時だった。劇団はそれから長い自粛に突入した。
 ヴァムピーロフ(1937~72)の作品は、ピッコロ劇団に入団した当初に「上の息子」を演出した。思い入れの強い作家だ。
 この物語の主人公ズイーロフと同年代の30歳で描いたこの物語。この2年前に描いた「上の息子」と今作とはともに父親と息子、その再会と別れを描いている。
 この作家の世代の父親たちはほとんど第二次世界大戦を戦い勝利した英雄たち。ここでの「鴨猟」は、日本の釣りに似て、父親が幼い息子に教えるスポーツとも言える。
 先人たちの恩恵を受け順調な生活をしながら、ハタと先人には到底及ばない色あせた生き方をしていることに気付いてしまったズイーロフ。
 先例のないことへの焦り、自暴自棄になりながら答えもなく足掻いているズイーロフは、コロナを経つある現代に生きる私たちに何を感じさせてくれるのだろうか。



台本・演出 **島守辰明**
 東京都生まれ。2003年から3年、ロシア国立モスクワ・マールイ劇場及び附属シェーブキン演劇学校にて研修。2006年ピッコロ劇団入団。ピッコロ劇団での主な演出・翻訳作品に、『ワーニャ伯父さん!』『私のかわいそうなマラート』『喜劇 かもめ』『長い墓標の列』など。そのほか劇団神戸など外部での演出も手がける。ピッコロ演劇学校では研究科主任講師を、新国立劇場演劇研究所や近畿大学、関西学院大学などでは非常勤講師をつとめる。平成28年度尼崎市民芸術賞受賞。

【お問い合わせ】
兵庫県立ピッコロ劇団
 〒661-0012
 兵庫県尼崎市南塚口町3-17-8
 ※月曜休館(祝日の場合は翌日)
 TEL 06-6426-8088
 FAX 06-6426-1943
 https://piccolo-theater.jp
 主催 | 兵庫県立尼崎青少年創造劇場

